

# 校内研究

## 1,研究テーマ目標

どの子にも確かな学力を

—自ら課題を見つけ、働きかけ、学びとろうとする子どもを育てる—

## 2,テーマについて

「確かな学力」とは「教科の基礎基本が身についた力」と捉える。「確かな学力」がつけばこそ、自ら学ぶ力も育つと考える。つまり、「自ら学ぶ子ども」は「確かな学力をつけた子ども」にすることで育成されると考える。

## 3,研究・実践の柱

(1) 基礎学力の充実を図る。

- ・国語、算数について、学年初めに基礎学力検査を行い、子どもたちの実態を把握し、指導に生かす。
- ・県下で実施されている学力診断テストの結果を分析し、課題を明らかにし、有効な指導を図る。
- ・「読む、書く、計算」について、毎時間の初めの5分程度をその練習時間に当て、継続していく。また、研究授業においてもその指導法について研究を積んでいく。

(2) 人権・同和教育の充実を図る。

- ・心や仲間の問題、身体や生活の問題、いじめ・問題行動・不登校などの問題を理論的、実践的に研究し交流する。
- ・仲間づくりを重視した学級づくりをする。

(3) 教科及び総合的な学習を通じて授業研究を行う。

- ・提案授業をする。(全体提案授業6)
- ・全体提案授業は、水曜日の5限に行う。
- ・学年またはブロック別のワークを大切にする。
- ・学年の提案と協議課題を明確にし、協議会を充実させる。

#### 4,教科及び総合的な学習による授業研究を進めるにあたって

学力の問題が重要視されている昨今、児童に豊かな人間性や教科の基礎基本を確実に身に付け、個性を生かし、自ら学び考える子の育成を目指して次のように授業研究を進めたいと考えている。

- (1) 子どもの実態に合わせ、教科の単元を組み、学習展開をはかり、子ども自身が「わかった」と言える授業を進める。
- (2) 一人ひとりの子どもの学習の過程を探り続け、可能な限り記録に留めることによって、子どもにつけたい「生きる力」を見極め、指導に生かす。そのため、授業研究では、子どもの学習活動が見える指導案づくり、教師の意図が分かる指導案づくりに努める。
- (3) 授業（記録）をもとに、子どもが自ら学び、自ら考える場をさぐり、研究主題に迫る学習のあり方について研究を深める。
- (4) 授業研究を通して、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る学習のあり方（指導のあり方）について研究するとともに、創意工夫を生かし、特色のある教育活動のあり方をも研究する。

以上の中で、各研究者が個性を發揮し、研究を進められるように、互いに認め合い、様々な角度から議論し合うことによって、研究を進めていきたいと考えている。